

第3回WSでのアンケート調査結果

資料-3

Q1 グループで話し合いをした今日のワークショップについて、どのような感想を持ちましたか？	満足度
・色々な意見が聞けた。漁業について少し分かりました。	満足
・グループ「橙」ではお互いの意見を確認しあえた。	どちらでもない
・少しは自分の気持ちを言わせていただきました。次回は席を変えたい。	
・意見はたくさん出たのでそれは良かった。	わからない
・自己主張が強い人の意見ばかりで時間を使ってしまう。	不満足
・まだまだ一方。他の意見も聞きたい。色々な話を聞きたい。	わからない
・テーブル内で会話が出来始めたのは良かった。	どちらでもない
・漁業者から直接話を聞いた。	満足
・なかなか議論に入れない。	不満足
・少し進んだような？	満足
・漁師の方の話が聞いて良かった。	わからない
・漁業関係者の要望が理解できた。	どちらでもない
・グループワークに入れて良かった。でもグループワーク後の意見交換が出来ず残念。	どちらでもない
・初めての参加、正直面喰いました。開会すぐ重箱の隅をつつくような発言。この種の話は聞きたくない。	不満足

Q2 第3回ワークショップのなかで、関心が深まったことや、理解が進んだことが何かありますか？

- ・ 反対者の反対理由が聞けなかった。
- ・ 十人十色の意見がある事が分かりましたので、いつまでも平行線。理事者の責任ある判断（決断）が必要。
- ・ 魚の地産地消が欠如している。
- ・ みんながいろんな考えを持っているのもっとテーブルごとに話し合いたい。
- ・ 鎌倉の漁業の実情が知れた。
- ・ 砂流出の問題。
- ・ 鎌倉の魚。
- ・ 漁業者の方の生の意見
 - ・ 必要性を生の声で（稼働率）
 - ・ 和賀江島が良い
- ・ 鎌倉漁業の現状、未来。
- ・ 漁港のあり方、ビジョン。
- ・ なんで現在ある腰越とかに避難できないかわかった。しかし各船によって違うらしい。
- ・ 漁業は助成金なしでは成り立っていないと思っていたので、？さんから漁業は儲かっていると聞き、認識が変わりつつある。儲かる産業にしていくのが前提と思う。その上で人口減る中で造る意味はあるのか、という意見も説得力がある。漁業者の10年後のビジョンを聞きたい。
- ・ 会の始まりにゼロベースで話し合いの場というのであれば課なり市長なりが出てきて会を始めたい。
- ・ 鎌倉で獲れた魚の流通される工程を知れたこと。
- ・ 漁港の場所。
- ・ 必ずしも反対でないマリン関係者が多かったこと。
- ・ 漁業関係者との意見交換は良かった。
- ・ 仮に建設するとした場合の場所を再検討する必要性
- ・ 漁業関係者の実情の説明で実態を少し理解
- ・ 港の必要性について理解が向上した。
- ・ 何が課題となっているのか少しずつ見えてきたように思う。もっとグループワークで話し合うと良いと思う。
- ・ 傍聴者として参加。漁港建設にはやはり多種の方々の賛成意見が必要。
- ・ 今後の進行は自分なりに決めようと思った。

Q3 第3回ワークショップのなかで、質問や発言できなかったことがありますか？

- ・マリンスポーツと漁業との共存について。
- ・漁港建設を踏まえた上で自然との共存を考えるべき。
- ・漁業関係者が得る利益、周辺住民、当該地域利用者の損。
- ・20億円先行しているか、市の負担は5億円。ここは皆できちんと押さえておく必要がある。
- ・港とマリンレジャーの関わりについて、いずれ発言する必要があります。
- ・漁師さんに聞いてもあとでその質問ならこう答えるとか回答が変わってしまうのはなぜでしょうか、と思った。
- ・時間が少なかった。

Q4 今後、ワークショップの場で、みんなで話し合った方がよいと思われることについて、何かご提案はありますか？

- ・一般市民への情報公開、提供の具体策
- ・一般市民からのコメントの吸い上げの具体策
- ・50年後のビジョン。
- ・全部。
- ・和賀江島の可能性について：本当にダメなのか、動かせない前提なのか、市はこれまでどのような働きかけ、プロセスを経たのか？
- ・漁業者も一般市民もわからない事が多分にあります。お互い意見交換する場が必要である。
- ・漁業関係者が得る利益、周辺住民、当該地域利用者の損
- ・サーフエリアの破壊
- ・市民も観光客も使えるサカナ基地（コストペイできる港）の建設が可能か否か。それによって判断も決まる。国際的モデルを基準とした話し合い、この資料が欲しいですね。
- ・みんなで話し合ってもあまり意味が無い。みんなの意見を発表してすべての意見を出し尽くすことが必要では。
- ・Q2にも書いたが、税金をかけて産業保護は論外、いつもうまくいっていない。むしろ漁業を応援すれば市が豊かになるという議論を聞きたい。（漁業者のプレゼン）
- ・また一人の意見に集中しがち。多様な考えをもっとテーブルに出したい。
- ・今後のスキーム。
- ・漁港の必要性を定量化して示せないか。
- ・具体策を時間かけて論理的に
- ・必要とする方、不要とする方、それぞれの利害をなくすこと
- ・もっと広く知らしめること
- ・建設的な提案がありそう…なので再度そちらに展開できるようにしたい、してほしい。
- ・メリット・デメリットの対比から、必要性の是非のたたき台を作ってみてはどうか。